

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

				事務事業コード		422-02-02	
事務事業名		小学校給食提供事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		072-958-2306	
担当部署名		学校給食センター		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	4	未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち		款	10	教育費
	施策	2	学校教育		項	6	保健体育費
	施策の方向	2	安心して学べる教育環境づくりの推進		目	2	学校給食費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市立小学校及び義務教育学校前期課程の児童					
	目的 (どうしたいか)	児童の心身の健全な発達と、食に関する正しい理解と適切な判断力を養成する。					
	手段 (事業内容)	日々の小学校及び義務教育学校前期課程の給食の提供において、市教育委員会や羽曳野市学校給食会での献立作成、物資購入、食物アレルギー対策に関する協議に基づき、安全で充実した給食の実施を図る。また、各学校での栄養教諭を中心とした児童や保護者への食育指導に取組む。					

予算・決算額		(単位:千円)			※主な内訳(令和4年度決算)※
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 調理業務委託料 232,921千円 学校給食事業補助金 135,074千円
当初予算額	事業費	249,318	431,840	443,640	
決算額	事業費	470,449	379,054	—	
	特定財源等	0	0	—	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			【特定財源】
指標名	給食提供食数		単位	食	
指標の説明	1日あたりの給食提供食数(5月1日時点、教職員含む)				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
目標(見込)	5,455	5,410	5,380		
実績	5,455	5,410	－		

「事業の参考数値等」

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	給食を原因とする健康被害の発生数	単位	人	
指標の説明	給食への異物や予定しない食物アレルギー物質の混入、及び食中毒により健康被害が生じた喫食者の人数			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標(見込)	0	0	0	
実績	0	0	－	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	改善して継続	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 令和4年4月から老朽化の著しい第1学校給食センターを休止し、市内8校(約3,700食)の調理業務等を民間事業者へ委託している状況である。 第2学校給食センターについては、引続き稼働中であり市内6校(約1,700食)に学校給食を提供している。		(令和5年度以後の事業実施への改善内容) 新センターでの供用開始までの間、安定した学校給食を提供出来るよう、事業者との適切な連携を図っていく。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

				事務事業コード		422-02-03	
事務事業名		給食センター等施設管理事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		072-958-2306	
担当部署名		学校給食センター		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	4	未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち		款	10	教育費
	施策	2	学校教育		項	6	保健体育費
	施策の方向	2	安心して学べる教育環境づくりの推進		目	2	学校給食費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	第1学校給食センター、第2学校給食センター、各学校給食室設置備品					
	目的 (どうしたいか)	日々の小学校及び義務教育学校前期課程児童への給食の提供を円滑に実施するため、施設及び設備を維持管理する。					
	手段 (事業内容)	施設・設備の定期的な点検や老朽箇所の補修と故障修理を適切に実施する。					

予算・決算額		(単位:千円)			《主な内訳(令和4年度決算)》	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度		
当初予算額	事業費	63,104	39,821	40,425		
決算額	事業費	70,995	30,887	－		
	特定 財源等	0	0	－		
活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)				
指標名		修繕回数		単位	回	
指標の説明		給食施設・設備の修繕を依頼した回数				
		令和3年度	令和4年度	令和5年度		
目標(見込)		80	50	50		
実績		64	26	－		

【事業費】
光熱水費 18,171千円
修繕費 1,560千円

【特定財源】

《事業の参考数値等》

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	給食施設・設備を原因とする給食中止回数	単位	回
指標の説明	給食センターの施設・の不具合により給食の全部または献立の一部を、中止または変更した回数		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	0	0	0
実績	0	0	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	改善して継続	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 令和4年4月から老朽化の著しい第1学校給食センターを休止し、民間事業者へ調理業務等を委託。第2学校給食センターにおいても老朽化が進んでいるため学校給食の提供に支障が生じる懸念がある。		(令和5年度以後の事業実施への改善内容) 引き続き、第2学校給食センターの施設、設備等の維持補修を適切に実施していく。